

して、東台二密に通達せらる、而かも其の本領は新義眞言宗にあり。故に古義眞言宗即ち弘法大師の密教を遵守する徒より本書を評せば、論議すべき餘地は多からむ。密教與義と稱するも、新古を通じ、台密をも抱攝するものと連斷すべからず、このことは網要通解の場合よりも、與義に於て讀者の最も注意を要することとなり密教與義二卷は要するに、密教研究者の必讀すべき良書として推賞して措かざるものなり。(和装二卷 定價四圓丙午出版社)(鳥越道眼)

禪宗綱要

秋野 孝道著

目次 第一編 總說 第二編 禪宗の相承 第一章 禪及禪宗の起原 第二章 印度の相承 第三章 西天四七の祖 第四章 支那の相承 一、達磨以前の禪法 二、祖師西來 三、東地二三の祖 第四章 禪宗の分派 一、牛頭禪 二、南嶺北漸 三、青原南嶽の二系 四、五家七宗 五、看話と默照 第六章 日本の相承 一、鎌倉以前の禪 二、榮西道元の兩禪師 第七章 鎌倉以後の臨濟宗 第八章 曹洞宗の傳播 第九章 徳川時代の禪宗 一、黄檗宗の傳來 二、臨濟宗の復興 三、曹洞宗の隆盛 第十章 明治以後の禪宗 第三編 禪宗の宗意 第一章 禪の本領 第二章 正法眼藏 第三章 宗名 第四章 所依の經典 第五章 坐禪辨道 第六章 家風の意義 第七章 五家禪風の異同 第八

章 臨濟曹洞の兩禪風 第九章 洞山大師と臨濟大師 第十章 四料簡と五位 一、四料簡 二、五位 第十一章 看話、默照の兩禪風 第十二章 公案に就て 第十三章 坐禪に就て 第十四章 禪と戒 第一章 禪門と實踐 第二章 坐禪の儀則 第三章 坐禪と悟 第四章 坐禪の功用 第五章 戒法 一、禪戒 二、戒の意義 三、戒源 第六章 十六條戒 第七章 戒法受持 一、開遮持犯 二、止惡と作善 三、受戒及其次第 第八章 禪戒一如 第五編 結言、

著者は曩に曹洞宗大學長として 令名あり、現に遠州可睡齋に和光同塵し、幾百の雲納を針黹しつゝある作家の職將、將に天下の輿望を負ひ、法幢を高く大本山永平禪寺に建てんとする學徳兼備の大家匠なり、此の師家にして此の著ある、其の内容の充實、完備推して知るべきのみ、

由來、禪門に關する著述は實に汗牛充棟も畜ならず、殊に明治の末葉以降を最も甚しとなす、されど、之等を一々點檢し來らば羊頭を懸けて狗肉を賣る底のもの其の半を過ぐと云ふも決して誇張の言に非るなり、甚しきに至つては眼に一丁字なき(宗門上)所謂學者の揣摩臆測に成れるものすら枚擧に遑あらざるなり、彼等の所論は壯は壯なりと雖も彌々眞に遠かり、快は快なりと雖も益

正鶴を失し、惜い哉、倒退三千里、一隻眼を具するものをして趙括の兵法を聴くの癡癡を催さしむるもの蓋し妙からざるなり、然るに本書は、彼等と全然其撰を異にし、著者多年の眞個眞參實究の結晶、聖胎長養の賜にして、一句一言悉く醍醐の上味ならざるはなし今試みに其の最も著しきもの二三を擧げむに、

第三編 禪宗の宗意は、著者の最も心血を注ぎし處にして、又最も難解難入のもの、到底三昧三昧の端的保任に幾十の星霜を閲せしものに非んば、正に是れ銀山鐵壁底のもの、然るに著者の閃電光の活眼晴、擊石火の活手段に依りて、技に新裝を凝らして、吾人の眼前に躍如たらしむことを得たり、殊に五家七家の禪風の異同を論じて、曹洞、臨濟の兩家の家風の徑庭に論及し、兩家の關楔子たる、臨濟の四料簡と、洞山の五位とを咄嗟の間に批判し、最新の箭矚の内に配列し去りし眼光、手腕は、實に古今獨歩、前に佛祖なく、後に來者なきもの概を示し、到底他の所謂學者の追従模倣を許さざる處なり。

第四編に禪と戒との交渉を論ずるや、禪戒一如、畢竟不二と斷じ、一切の戒律をば、一箇の心性に返本還源し、皆この坐禪の中より現前して盡くることなしと裁斷し去りし如き、一として明快出色の卓説ならざるはなし、

蓮英、禪は著者の所論の如く、自知自證の宗門にして、決して

机上の開葛藤にあらず、假令萬卷の經論、祖錄を讀破し盡すとも本來の眞面目とは則ち是れ沒交渉なり、されハ本書の充全完備を以つてするも、猶ほ是れ禪海の一指針たるに過ぎず、費くは此の確なる一指針をば徒らに閑指針することなく、勇猛精進以つて直下に離言絕慮の活路に發進せられむことを熱望して歎ます、
 (東京市小石川區原町六番地丙午出版社發行、定價金貳圓五拾錢 淳沱河の流を汲める一雜僧、原眞乘)

彙

報

京都帝國大學文學部哲學科大正九年
 講義題目正科目

西洋哲學史		普通		特殊		演習		講讀		普通		
		西田	2	西田	2	西田	2	西田	2	朝永	4	
特殊	朝永	3	朝永	4	田邊	2	田邊	2	朝永	3	朝永	4
學	カント及カント以後ノ哲	學	西田哲學史	西田哲學史	Hegel, Die Wissenschaft der Logik	Kant, Kritik der reinen Vernunft	西田哲學史	西田哲學史	朝永	3	朝永	4